地域と福祉を心でつなぐ

NETWORK ネットワークこぶし

2021
1
通巻33号
令和3年1月発行

巻　頭
新年を迎えて
社会福祉法人長岡福祉協会 高齢者総合ケアセンターこぶし園　総合施設長　滝本一也

トピックス
・レスピット・イン・こぶし案内（サポートセンター与板）紹介
・こぶし園とICTへの期待

こぶし園　インフォメーション

SINCE 1982
KOBUSHIEN
The system of all-inclusive care for the elderly
高齢者総合ケアセンター
こぶし園

新年を迎えて

高齢者総合ケアセンターこぶし園
総合施設長　滝卒　一也

昨年8月より、総合施設長を務めさせていただくことになりました。

日頃より当園の事業に対して格別のご理解とご協力を賜り、心から敬意を表しますとともに、深く感謝申し上げます。

【新型コロナウイルス感染症への対応について】

本来であれば、年間計画に沿った形で様々な行事や取り組みが行われたはずですが、日本を含む世界における新型コロナウイルス感染症の影響で各行事及び取り組みが軒並み中止や延期、縮小を余儀なくされ、ご利用される皆様の活動の制限や地域の方との交流も十分でない状況が続いております。

このような例を見ない困難な状況下ではありますが、国が提唱する「新しい生活様式」を各サポートセンターの現場でも実践しながら、「こぶし園がご利用者のために何ができるか、ご家族のために何ができるか、地域社会のために何ができるか」を常に問いかけ、地域を支えて行きたいと考えております。

当法人では、昨年7月に崇徳厚生事業団グループの一員としてそれぞれの職場で、「日々どのような意識をもって行動するか」の基本となる項目を定めた行動憲章を作成しました。

その一つの章に「自利利他の精神」という言葉があります。『相手の喜びは自分の喜び　自分のためにと思う行動は、同時に他人のためにもと思う行動に』と定めています。

私たち医療・福祉従事者に限らず、多くの市民の皆さんは、様々な職種や役割の中で、現在のコロナ禍を乗り越えようと日々奮闘しています。このことについて、自利利他の精神を現下の状況に当てはめて考えてみました。

新型コロナウイルス感染拡大の予防策の一つとして、不要・不急の外出自粛要請が出ています。残念なことですが、主旨が伝わらず、感染対策が不十分なまま遊びに出かけてしまう人や、感染しても何とかなると考えている方が一定数いました。

しかし、自分が感染すれば、周囲にウイルスを媒介してしまうかもしれません。「自利利他」の考えを実践すれば、感染拡大防止のため、万全の策を尽くす人々を増やすことが可能です。それにより自分も感染しない・人にもうつさないという、重要な感染拡大対策に貢献できると考えます。感染拡大防止はひとりひとりの考えや行動で大きく貢献できます。職員一人一人が、今一度、「自利利他の精神」をしっかり考え、感染拡大防止について何ができてどうすればいいのか考えていきたいと思います。

【介護保険制度の改正とこれからの取り組み】

当園は開設以来、「住み慣れた地域で暮らし続ける」という地域包括ケアの実現に向け事業を展開して参りました。引き続き邁進しますが、日本は今、後期高齢者が急増する「2025年問題」、現役世代が大幅に減少する「2040年問題」などこれから大きな節目を迎えます。新潟県及びこの中越地域も例外ではありません。また、新型コロナ禍や各種災害などの想定外の事態への対応が迫られるなど、施設運営は順風満帆とは言えない状況にあります。その中、今年4月には介護保険制度が改正されます。国は、基本的な視点として、4つ掲げています。

まず一つ目が、当園の方向性とも合致する「地域包括ケアシステムの推進」です。在宅サービスの機能と連携の強化、医療と介護の連携の推進、看取り対応の充実、認知症への対応力向上などが求められます。当園としても、引き続き各職種とも「丁寧さ」を念頭にそれぞれの項目に取り組んでいきます。

二つ目は、「自立支援・重度化防止の推進」です。リハビリテーション・機能訓練への取り組み・連携強化と介護サービスの質の評価に力を入れ、エビデンス（根拠）に基づく、介護サービスの提供が求められて行きます。記録の重要性は元より、それらを次のケアに活かせるよう、後述するICT（情報通信技術）の活用も検討しながら進めて参ります。

三つ目は、「介護人材確保・介護現場の推進」です。介護保険制度は2000年（平成12年4月）に施行され、今年で20年目の節目の年度となりました。この制度は、高齢者の介護を社会全体で支えること、すなわち「介護の社会化」を図ることを最大の目的として創設されました。今後現在在職している職員の研修や現場での経験を通じた育成と合わせ、次代を担う人材の育成・確保を適切に進め、介護サービスの質の確保と向上に努めます。また、外国人材の採用や介護サービスの質を確保した上でのロボット・ICT（情報通信技術）の活用についても、法人及び崇徳厚生事業団と連携を図りながら進めて参ります。

最後に「制度の安定性・持続可能性の確保」です。前項で述べた感染対策・災害対策は元より、介護保険自体の評価の適正化や重点化、報酬体系の簡素化等も含まれてきます。この先の20年をより意識し、制度に沿いながら、地域にとってなくてはならない施設として業務運営を行います。

これらの改定の方向性を受け、地に足を付けた事業運営に努めて参ります。改めまして、当園の活動に皆様のご理解とご支援、ご協力をお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

あなたの介護（くらし）を支えます

サポートセンター千秋
- 地域密着型介護老人福祉施設
- 短期入所生活介護
- 認知症対応型共同生活介護
- 通所介護(認知症共用型)
- 小規模多機能型居宅介護
- 通所介護(認知症)

サポートセンター永田
- 通所介護（一般）
- 訪問介護（サテライト）（24 時間 365 日型）
- 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
- 居宅介護支援事業所
- 配食サービス（3 食 365 日型）
- 在宅支援型住宅

サポートセンター川崎
- 地域密着型介護老人福祉施設
- 小規模多機能型居宅介護
- 地域交流スペース
- 配食サービス（3 食 365 日型）
  カフェテラス / キッズルーム
- 在宅支援型住宅

サポートセンターけさじろ
- 通所介護（一般 / 認知症）
- 長岡市地域包括支援センター
- 長岡市高齢者センター
- 配食サービス（3 食 365 日型）

サポートセンター美沢
- 地域密着型介護老人福祉施設
- 小規模多機能型居宅介護
- 訪問介護（24 時間 365 日型）
- 定期巡回・随時対応型訪問介護・看護
- 配食サービス（3 食 365 日型）

サポートセンター摂田屋
- 地域密着型介護老人福祉施設
- 認知症対応型共同生活介護
- 小規模多機能型居宅介護
- 配食サービス（3 食 365 日型）
- 地域交流スペース
  カフェテラス / キッズルーム
- 在宅支援型住宅

サポートセンター西長岡
- 居宅介護支援事業所
- 長岡市地域包括支援センター
- ケアハウス

サポートセンター千手
- 地域密着型介護老人福祉施設
- 認知症対応型共同生活介護
- 小規模多機能型居宅介護
- 配食サービス（3 食 365 日型）
- 地域交流スペース
  カフェテラス / キッズルーム

くらし元気アップ千手

サポートセンター上除
- 認知症対応型共同生活介護
- 居宅介護支援事業所
- 地域交流スペース
- 在宅支援型住宅

サポートセンター平島
- 居宅介護支援事業所
- サービス付き高齢者向け住宅

サポートセンター与板
- 短期入所生活介護

くらし元気アップ深才

サポートセンター三和
- 小規模多機能型居宅介護（サテライト）
- 訪問介護（24 時間 365 日型）
- 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
- バリアフリーアパート

小規模多機能型居宅介護 アネックス関原
- 小規模多機能型居宅介護
- カフェテラス

サポートセンターしなの
- ケアハウス
- 通所介護（一般 / 認知症）
- 訪問介護（24 時間 365 日型）
- 定期巡回・随時対応型訪問介護・看護
- 夜間対応型訪問介護
- 訪問看護（サテライト）（24 時間 365 日型）
- 居宅介護支援事業所
- 配食サービス（3 食 365 日型）
- 健康増進・介護予防センター
- 長岡市高齢者センター
- 診療所

サポートセンター関原
- 通所介護（一般）
- 訪問介護（サテライト）（24 時間 365 日型）
- 配食サービス（3 食 365 日型）

サポートセンター深沢
- 通所介護（一般）
- 訪問看護（24 時間 365 日型）
- 小規模多機能型居宅介護
- 居宅介護支援事業所
- 配食サービス（3 食 365 日型）

サポートセンター喜多町
- 介護老人福祉施設
- 短期入所生活介護
- 訪問介護（24 時間 365 日型）
- カフェテラス
- 配食サービス（3 食 365 日型）

サポートセンター大島
- 看護小規模多機能型居宅介護
- 訪問看護（24 時間 365 日型）
- 地域交流スペース
- カフェテラス / キッズルーム

サポートセンター大島新町
- 居宅介護支援事業所
- サービス付き高齢者向け住宅

24時間 365日！
あなたの介護をフルサポートします！

サポートセンター深沢

長岡市深沢町 2278-8
（代表）TEL.46-6610 FAX.47-1243

サポートセンター関原

長岡市関原南 1-4526
TEL.42-8501 FAX.42-8502

小規模多機能型居宅介護アネックス関原

長岡市関原南 1-4385
TEL.47-5004 FAX.47-5014

サポートセンター上除

長岡市上除町西 1-411
（代表）TEL.42-8503 FAX.42-8504

サポートセンター喜多町（特養こぶし園本体）

長岡市喜多町 2900 番地
TEL.20-5170 FAX.20-5172

サポートセンター千手

長岡市千手 3-1-14
（代表）TEL.31-3263 FAX.34-7340

サポートセンター川崎

長岡市川崎 6-1286
（代表）TEL.39-1008 FAX.39-1013

サポートセンター大島

長岡市大島町字谷内甲 1161
（代表）TEL.28-2161 FAX.28-2162

サポートセンター大島新町

長岡市大島新町 3-1-10
TEL.22-5715 FAX.22-5716

サポートセンター摂田屋

長岡市摂田屋 5-9-6
（代表）TEL.39-1510 FAX.39-1512

サポートセンター永田

長岡市永田 2-9-25
（代表）TEL.21-2900 FAX.21-2904

サポートセンターしなの

長岡市信濃 2-6-18
（代表）TEL.31-7700 FAX.31-7717

サポートセンター西長岡

長岡市三ツ郷屋字下川原 383-1
（代表）TEL.29-6622 FAX.29-5600

サポートセンター三和

長岡市三和 3-138-2
（代表）TEL.31-4790 FAX.37-6162

サポートセンター美沢

長岡市美沢 4-211-6
TEL.30-1733 FAX.30-1735

サポートセンターけさじろ

長岡市今朝白 2-8-18
（代表）TEL.39-6266 FAX.39-6299

サポートセンター平島

長岡市平島 2-53
（代表）TEL.23-3610 FAX.23-3601

サポートセンター千秋

長岡市千秋 2-221-14
（代表）TEL.28-8820 FAX.28-8821

サポートセンター与板

長岡市与板町中田字江割59番地1
TEL.72-0030 FAX.72-0031

サポートセンターおぢやさくら

小千谷市小粟田 2734 番地 14
TEL 83-1786 FAX 83-1785

サポートセンター小千谷ケアハウス

小千谷市小粟田 2732 番地 13
TEL 82-1080 FAX 82-1086

サポートセンター片貝さくら

小千谷市片貝町 4708 番地 1
TEL 81-2051 FAX 81-2052

レスピット・イン・こぶし（サポートセンター与板）紹介

高齢者総合ケアンセンターこぶし園は、地域包括ケアシステムの原点として昭和61年に短期入所介護（ショートステイ）事業を開始して以降、24時間訪問介護、24時間訪問看護の展開と続き、その後配食サービス等の施設機能を旧長岡市内18か所の地域に分散し、サポートセンターとして構築してきました。また、郊外の大きな特別養護老人ホームを市内の各地域へと分散し、介護が必要になっても地域社会で暮らし続けるための仕組みを作り続けてきました。しかし近年の福祉施策では、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、介護付き有料老人ホームの施設の増床、併せて短期入所生活介護事業の廃止、事業縮小といった情勢であり、住み慣れた地域で生活していきたいと望む高齢者のニーズと合致しているわけではありません。その中で、与板町の小さな集落のお声掛けから、与板地域にて、短期入所生活介護を基盤とした19か所目のサポートセンター与板を立ち上げるに至りました。

在宅サービスの主軸でもある短期入所生活介護は、特別養護老人ホーム等に短期間宿泊して入浴や食事などの生活援助を受けられるサービスです。また、自宅での生活を継続するためのものとして有効に活用されています。利用期間についても利用者ニーズに合わせた期間を選択できることから、自宅とショートステイを行ったり来たりするので、家庭の中でその人の生活空間が残っているという実感が持てます。

そのショートステイを運営するにあたって、以下の三つのコンセプトを掲げていきたいと思います。

一つ目に、ご自宅での介護環境を大切に、ご利用者様の個々の事情、好み、興味、関心に寄り添い、ハード面及びソフト面に配慮したケアを提供していきます。二つ目に、医療的配慮を特徴とし、リハビリ、緩和ケア等医療との連携が必須である為、主治医、嘱託医、協力病院との連携を図りながら、安心してお過ごしいただけるケアを提供していきたいと考えております。三つ目に高齢者自身が地域の中の一員であると考え、行事等を含め交流の場として色々な方々の往来ができる事業運営を行っていきます。

そして、将来の展望としては、どこか懐かしいその時代の良き面を感じていただき、ふるさと創生、そして新しい地域のカタチが創れることを念頭に、地元住民の皆様のご協力もいただきながら、さらなる「地域包括ケアシステム」の展開を目指していきたいと思います。

お問い合わせ先
サポートセンター与板管理者
田中　孝

こぶし園とICTへの期待

高齢者総合ケアセンターこぶし園
名誉園長　吉井　靖子

新型コロナウイルス感染の終息が中々見えない状況が続き、「新しい生活様式」での暮らしを余儀なくされた日々かと思います。このコロナウイルス感染がもたらす影響は大きく様々な環境に変化を来したと思います。新しい生活様式を始めとし、一気にテレワーク化といった働き方への影響や、会議などのWEB形式、教育、医療面でのオンライン化、施設利用者などの面会方法など必然的にICT活用の流れにならざる得ない環境変化だと思います。このICT活用については、一方感染対応に限らず、今後は生産年齢人口の減少を迎えるこの社会において益々期待が求められる一つかと考えます。

さてこのICT活用については、当高齢者総合ケアセンターこぶし園においては、既に平成15年から先駆的に活用をしてきた経緯があります。当園は開設以来、高齢者が最期まで住み慣れた環境で暮らし続けることができる地域の実現に向けて取り組んできました。要は地域全体を一つの施設と考え医療・看護・介護スタッフがリアルタイムに情報を共有することにより在宅でも施設と同じように適切な治療やケアが受けられる仕組みつくりです。そこには地域だからこそ医療・介護の連携はより必要不可欠です。そこで国は平成24年に「在宅医療連携拠点事業」を全国にモデル事業を実施しました。新潟県ではこぶし園の訪問看護ステーションがその一つとして採択されました。この時に既に当訪問介護・訪問看護で先行的に使用していたICTの活用を「点」から「線に」へ、そして地域という「面」へと拡大させることができました。そして長岡市における多職種情報共有ツールとして進化し「長岡フェニックスネット」に結びつく結果となりました。さらにそこに、救急隊員や多くの団体も加わり長岡市独自の「多職種情報共有システム」が構築されたことになります。このフェニックスネットの最大の特徴は、在宅チームの多職種が日常的なケアに必要な情報を共有するネットと本体と、救急病院、救急隊が緊急搬送に必要な情報を閲覧する後方支援システムの二重構造になっている点です。同ネットの現在の参加機関は189ケ所、登録者数7334人です。

今後、益々高齢化が進み、独居世帯や老齢世帯の増加する社会を迎えるにあたり、このフェニックスネットの普及、活用は安心した暮らしを支援していくツールの一つと考え期待できるものと思います。また今回のように新型コロナウイルスなど予期せぬ感染症対応においても、今後よりICTを活用しながら感染対策が図られていくのではないでしょうか。

例えば面会制限時の活用や、県外家族との画像による連絡、多職種間の情報共有などなど期待できる点は多く存在します。今後も利用者、家族、地域、医療、介護等がうまく活用し、育てていく視点も大切かと考えます。

最後に当園の介護現場から発信されたタブレットの活用が地域へと進化していったことは本当にうれしく思いますし、介護現場からの発信だったからこそ活用拡大や進化していったのではないかと思います。

刻々、時代は変化しその時代に応じながら、誰もが住み慣れた環境で暮らし続けられるように今後も暮らしの支援に努めてまいりたいと思います。

こぶし園インフォメーション

今回は、長岡看護福祉専門学校に在学(1年生)し、働きながら学ぶ制度を活用して、サポートセンター千秋で働いている【戚(せき)さん】【費(ひ)さん】をご紹介したいと思います。

彼女達は、中国からの留学生で、日本語を始め、文化や習慣、様々なところで私たち日本人が日本人にケアするのとはまた違った大変さがあると感じます。

その環境の中で、グループホームに配属となり、令和2年5月から就労しています。

(R2・12月~戚さん、特養千秋に異動)

戚(セキ) 興麗(キョウレイ)さん

費(ヒ) 雲帆(ウンハン)さん

2人へいくつか質問をしてみました。

まず、実際に働いてみてどうですか?

【戚さん】認知症の方の食事介助では相手の表情をしっかり観ながらすすめることや、コミュニケーションをとる際は、相手の立場になって思いを聴くこと、寝たきりの方の入浴を行うこと等、頭と身体を使う仕事です。最初は疲れてしまいましたが、今はだんだん慣れてきました。

【費さん】お年寄りの笑顔を引き出すのは簡単なことではないです。人によって気になること、心配することが違い、それによってケアの方法も違ってきます。その人に合うケアをしなければならないすごく頭を使う仕事です。

学校の勉強をしながら、働いて大変ではないですか?

【戚さん】働くことは大変です。でもそれ以上に、日本語が難しいです。

【費さん】正直、簡単ではないです。特に言葉の部分で、日本語やその地域の方言等分からない事があります。ですが時間をかけ一つ一つ解決して頑張っています。

そもそも福祉の道にすすんだきっかけは何ですか?

【戚さん】日本で語学を学びながら、どんな仕事に就きたいか考えていました。その中で、日本の高齢化にともなって福祉の仕事はこれからもっと必要になってくると感じました。そして、身体が不自由な方や高齢者の方々にとっての生きがいを一緒になって感じていくことは、自分にとっても人生の価値というものを見出せるのではないかと思ったからです。

【費さん】語学留学で日本の学校に通っていた時、偶然に福祉施設のキッチンでアルバイトをしてました。そこで出会った笑顔のお年寄りとやさしい職員さん達に出会い、「将来、こんなところで働きたい」と、感じたからです。

最後に、将来の夢について聞いてみました。

【戚さん】日本で経験を積み、できたら母国で高齢者施設を作りたいです。

【費さん】日本の福祉、介護技術をもっともっと身につけ、自分が学んだことを国に帰って広めたいです。

今日も、1スタッフとして現場で働いているお二人。ふと、学生であることを忘れ、あれもこれもお願いしたくなるような働きっぷりに一緒に働くスタッフも日々驚かされています。管理者からも、「日本人の職員が日本語でも対応に苦労している認知症の方々を、一生懸命に日本語、身体全体を使い必死で対応している姿に頭が上がらない。」と、話されていました。

戚さんの趣味はバトミントンや身体を動かすこと。費さんは絵を描くことや音楽を聴くことだそうです。

とても一生懸命なお二人、根気詰めずにリフレッシュしながらこれからも頑張って頂きたいです。

こぶし園インフォメーション

こぶし園のホームページを随時更新しております。こぶし園の取り組みや関連情報などを掲載しております。今回新たに「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」・「小規模多機能型居宅介護」事業所の紹介ページを新設しました。左記の二次元コードより内容を確認する事が出来ます。ぜひご覧ください。

小規模多機能

定期随時

ホームページアドレス　http://www.kobushien.com

編集後記

作成にあたりご協力頂いた皆様へ心から感謝申し上げます。コロナ禍で制限のある生活が余儀なくされております。様々な制限があっても生活は継続します。今後も変わりゆく時代に合わせた情報をお届けし、生活にお役立て頂けるように「ネットワークこぶし」を発行していきたいと思います。